

# ハートフルなんぶ

2023. 8月号 vol. 298



長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川1201番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

## 夏期学習室のご利用について

夏休み期間中は平日も2階大会議室を学習室として利用できる日があります。

### 学習室利用時間

午前10時～午後5時30分まで

(時間厳守)



※蓋つきの飲み物以外の飲食を禁じます。

(昼食スペースはありません)

※マスクの着用、手洗い、消毒等、感染予防にご協力ください。

※学習室をご利用いただける日は変更となる場合があります。

### 南部図書館 8月学習室開放日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		休館日			開放	開放
6	7	8	9	10	11	12
開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
13	14	15	16	17	18	19
開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
20	21	22	23	24	25	26
開放		休館日				開放
27	28	29	30	31		
開放		休館日		休館日		

### 今月の 新刊案内

- 『コメンテーター』奥田 英朗／著 文藝春秋 ≪Fオ≫
- 『極楽征夷大將軍』垣根 涼介／著 文藝春秋 ≪Fカ≫
- 『夜空に浮かぶ欠けた月たち』窪 美澄／著 KADOKAWA ≪Fク≫
- 『白蕾記』佐藤 雫／著 KADOKAWA ≪Fサ≫
- 『ぼんぼん彩句』宮部 みゆき／著 角川文化振興財団 ≪Fミ≫
- 『街とその不確かな壁』村上 春樹／著 新潮社 ≪Fム≫
- 『藩邸差配役日日控』砂原 浩太郎／著 文藝春秋 ≪Fス≫
- 『滅茶苦茶』染井 為人／著 講談社 ≪Fソ≫
- 『厳島』武内 涼／著 新潮社 ≪Fタ≫
- 『赤い月の香り』千早 茜／著 集英社 ≪Fチ≫
- 『口訳古事記』町田 康／著 講談社 ≪Fマ≫
- 『風配図』皆川 博子／著 河出書房新社 ≪Fミ≫
- 『香りの作法』齋藤 智子／著 翔泳社 ≪499サ≫
- 『発酵×薬膳』大竹 宗久／著 三笠書房 ≪596オ≫
- 『たまさんの食べられる庭』中川 たま／著 家の光会 ≪596ナ≫
- 『子どもと一緒に覚えたい野菜の名前』稲垣 栄洋／監修 マイルスタッフ ≪626コ≫
- 『ホットドッグの発想と組み立て』恩海 洋平／著 誠文堂新光社 ≪596オ≫
- 『爬虫類・両生類の飼育・繁殖ガイド』栗下 光幸／監修 誠文堂新光社 ≪666ハ≫
- 『思い出の昭和型板ガラス』吉田 智子／著 小学館 ≪751オ≫



- 『池波正太郎が愛した江戸をゆく パート 1、2』 鶴松 房治／案内人 朝日新聞出版 <291.3イ>  
 『清須会議』 三谷 幸喜／著 幻冬舎 <Fミ>  
 『青山に在り』 篠 綾子／著 KADOKAWA <Fシ>  
 『いのちの米』 富樫 倫太郎／著 毎日新聞社 <Fト>  
 『応仁悪童伝』 木下昌輝／著 角川春樹事務所 <Fキ>  
 『退魔士』 矢野 隆／著 幻冬舎 <Fヤ>



# ESSAY

「時代小説・歴史小説」

寄稿：ひよこ豆

長野市出身の偉人といえば、江戸時代の佐久間象山がいます。歴史を知らなくても、県歌「信濃の国」に出てくる名前としては知られているでしょう。松代藩出身の兵学者、思想家で、幕末から明治にかけて活躍した人たち、例えば勝海舟、吉田松陰、坂本龍馬などに影響を与えた人でした。幕末を舞台にしたNHKの大河ドラマにも時々象山が登場します。

象山を主人公とした小説では井出孫六の『杏花爛漫 小説佐久間象山』があります。2012年には仁木英之による『我ニ救国ノ策アリ 佐久間象山向天記』が書かれました。(仁木さんは8年間長野市で塾をやっていたそうです)

象山は江戸で兵学と儒学を教える塾を開き、多くの門人がいましたが、その中には坂本龍馬もいました。しかし、龍馬をモデルとした司馬遼太郎の『竜馬がゆく』には象山は出て来ません。実は司馬遼太郎は佐久間象山をあまり好きではなかったようです。

司馬遼太郎と並んで有名な時代小説家といえば池波正太郎がいます。池波は『真田太平記』が有名です。池波は劇作家長谷川伸の小説勉強会で作家を目指し、たまたま書庫で手にした『松代町史』で松代藩や真田家の歴史を知りました。昭和31年『恩田木工(真田騒動)』を発表し、それから歴史小説、時代小説を書くようになったそうです。『真田太平記』以外にも松代や真田家をテーマとした小説を多く残しました。そのためファンも多いと思います。

ただ歴史に興味のある私としては、小説を読んでもそれを史実と思いつまらず、区別してほしいなと思います。

池波正太郎は1923年(大正12年)生まれなので、今年は生誕百年ということになります。さらに勝海舟は1823年生まれなので、今年は生誕二百年になります。池波ファンや歴史好きにとって、今年はいろんなイベントを期待できそうです。

参考資料：『杏花爛漫 小説佐久間象山』上・下巻 井出 孫六／著 朝日新聞社 <Fイ>

『我ニ救国ノ策アリ 佐久間象山向天記』仁木 英之／著 幻冬舎 <Fニ>

『竜馬がゆく』司馬 遼太郎／著 文芸春秋 <Fシ> (版により巻数が異なります)

『完本池波正太郎大成第24巻(真田騒動)』池波 正太郎／著 講談社 <918.68イ>

『完本池波正太郎大成第18～20巻(真田太平記)』池波 正太郎／著講談社 <918.68イ>



## 2023年8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 2023年9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30



開館時間：午前10時～午後6時

■は休館日です